

古典的な貿易モデルであるヘクシャー・オリーンモデルに、家計の資本蓄積を導入した動学的ヘクシャー・オリーン (DHO) モデルにおいては、国際的な財の取引は自由に行われる一方で、国際的な資本移動や資産市場は考慮されていない。そこで、2国2財2生産要素のDHOモデルに、新たに国際的な資産市場を導入してモデルを構築し、初期時点における両国の資本量や資産量が、均衡経路および長期的に到達する定常均衡にどのような影響を及ぼすかについて考察を行った。ここで2財は消費可能な投資財と消費財とし、前者は貿易不可と仮定する。この仮定の下では、両国の生産要素価格は、通常のDHOモデルとは異なり均等化せず、その均衡経路は両国間の取引が全て可能である場合と比べて非効率なものとなる。しかし、そこで生じた非効率性は、定常均衡の安定性には影響を及ぼさず、DHOモデルと同様に初期の両国の資本量と資産量が決めれば、均衡経路は一意に存在し連続的に存在する定常均衡の一つに収束することが分かった。そして、投資財と消費財の資本集約度の差が、得られる結果に大きく影響することが判明した。具体的には、資本財が労働集約的な場合には、定常状態における資本量が貿易相手国よりも多い国の資産は負となるが、資本財が資本集約的な場合には、資本量が多い国の資産が正となること、および後者の場合には、初期時点で資本量が相手国よりも多く正の資産を持つ国が、定常状態において相手国よりも資本量が少なく負の資産を持つようになるといった状況が生じ得ることが分かった。

以上の結果をまとめると下の表のようになる。

	定常状態	初期時点からの格差の逆転
資本財が労働集約的	資本が多い国の資産が負	資本量か資産量のどちらか一方のみであれば可能
資本財が資本集約的	資本が多い国の資産が正	資本量と資産量の両方が逆転することも起こり得る